

ハートセンター

1. スタッフ

センター長（兼）教授 坂田 泰史
 その他副センター長（兼）教授 1 名、助教 4 名、医員 10 名、病棟事務補佐員 1 名
 （兼任を含む。また、助教は特任を含む。）
 （平成 29 年 10 月 1 日よりセンター長（兼）教授 澤 芳樹）

2. 診療内容

当ハートセンターは既存の診療科にとらわれない新たな枠組みとして循環器内科と心臓血管外科が共同する形で平成 19 年に発足した。東西 9 階病棟では合計 99 床の病床を有し、さらに東 9 階には CCU 6 床、西 9 階には CVCU 6 床がそれぞれ集中管理ユニットとして存在し、高水準かつ安全な治療を幅広く提供すべく診療活動を行なっている。当院は重症心臓血管疾患の最終受け入れ施設ならびに先進治療提供施設としての社会的使命を背負っており、北摂・大阪の地域医療の基幹病院としての役割はもとより、日本全国・海外からも多数患者を受け入れている。成人・小児の心臓移植および心肺移植認定施設である本院には全国から重症心不全の患者が紹介され、補助人工心臓装着患者の管理と移植への橋渡しを専任のコーディネーターを中心に行なっている。さらに、再生医療など先端高度医療の導入・応用による心機能改善の取り組みも行なっている。また近年の疾病構造の変化や医療技術の進歩に伴い、経カテーテル的大動脈弁置換術やレーザーシースによるデバイスリード抜去術、致死性不整脈に対するカテーテル焼灼術など、血管内治療をますます拡大しつつある。

さらに平成 21 年には心臓リハビリテーション（I）の施設認定を受け、本格的に心臓リハビリテーション室の運営を開始した。心電図、血圧をモニターしながら運動リハビリテーションが可能なエルゴメーター 5 台とトレッドミル 1 台を設置、また心臓リハビリ専属理学療法士及び看護師を配置し、質の高いリハビリテーションを進めている。

当センターの診療対象は循環器領域全般にわたるが、大別すると以下のとおりである。

- (1) 虚血性心疾患
- (2) 心不全
- (3) 大動脈・大血管疾患
- (4) 不整脈

- (5) 成人先天性心疾患
- (6) 心臓弁膜症

3. 診療体制

(1) 外来診療

循環器内科・心臓血管外科ともに月曜日から金曜日まで全日外来診療を行い、初診・再診を問わず広く症例を受け入れ診療に当たっている。また夜間・休日においても常に循環器内科 2 名、心臓血管外科 2 名の当直医が院内に常駐し、必要に応じて高度救命救急センターや集中治療部と連携をとり診療を行っている。特に、院内及び他院からの救急受診要請に対してはハートコール担当医によるホットラインを設置し、24 時間体制で対応している。

(2) 病棟体制

東 9 階、西 9 階病棟において、循環器内科、心臓血管外科の教員、医員が各患者担当となり、両科間の連携をとりつつ、入院治療に当たっている。運営面では心不全回診及びカンファレンス、弁膜症/TAVR カンファレンス、心臓移植検討会等を両科合同で行い緊密な連携の維持に努めている。東西 9 階病棟にはそれぞれ HCU を備えており、増床された集中治療部や高度救命救急センターとの連携を図りながら、重症患者や難治性疾患患者の治療に当たっている。

病棟カンファレンススケジュール

月曜日：	心臓血管外科教授回診 外科内科合同心不全回診 循環器内科心臓カテーテル検査カンファレンス 外科内科合同弁膜症/TAVR カンファレンス 外科内科合同心不全カンファレンス
火曜日：	循環器内科多職種カルテ回診 循環器内科不整脈カンファレンス 心臓移植検討会（月 1 回）
木曜日：	循環器内科教授回診 心臓血管外科ライター回診 心臓血管外科手術症例検討会
毎朝：	循環器内科カンファレンス

4. 診療実績

ハートセンターの平成29年度の請求額は総額約71億円であり、これは前年度約69億円から増加を示しているとともに当院の収益に多大なる貢献をしている。また平成29年度のハートセンターの平均入院患者数は124.8名（心臓血管外科75.7名、循環器内科49.2名）となっており、ハートセンター全体の合計病床数が99床であることから稼働率で90%を大きく上回る高回転運用を行っているのは勿論、ICUを含めた他病棟でも多くの診療活動を行いつつ現状では対応している。

当院は重症心臓血管疾患の最終受け入れ施設としての社会的使命を背負っており、北摂・大阪の地域医療の基幹病院としての役割はもとより、日本全国・海外からも多数患者を受け入れている。

まず心不全治療に関しては、当院は成人・小児の脳死心および心肺移植認定施設に選定されており、平成29年は脳死心移植を10例に実施し、その結果、累計99例に対して心臓移植を実施するに至った。補助人工心臓の植込み手術も増加する傾向にあり、平成29年も41例と国内で最大の症例数となっている。一方、再生医療として筋芽細胞シート移植をこれまで54例に施行し、これにより補助人工心臓からの離脱が可能となった症例も経験した。筋芽細胞シート移植に関しては平成28年にハートシートとして保険償還されている。また平成21年より本院が国内で初めて導入した大動脈弁狭窄症に対する低侵襲治療である経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)は心臓血管外科・循環器内科によるハートチームにて行う治療であり、平成29年には143症例に対し施行し累積で566例にまで達した。これは国内最多であり、その成績もきわめて良好である。大動脈弁狭窄症患者の増加に伴い世界的にも注目される治療であり、当治療の中核的施設として当センターのさらなる発展が期待されている。

心臓大血管開心術症例数は年々増加を続け、平成29年も700件と国立大学で最多の症例数となった。またPCI件数は210件、カテーテルアブレーション(EPS含む)及びペースメーカーなどのデバイス植込みはそれぞれ152件及び125件、心筋生検は226件であった。新たに平成27年度より施設認定を受け開始した心臓ペースメーカーリード抜去術についても順調に症例が集積されており、平成29年度の実施件数は11(累積49)件であった。これら治療内容の各論およびその他の各種検査、外来及び病棟における診療実績の詳細は循環器内科、心臓血管外科各科の報告に譲る。

5. その他

(1) 先進医療など

- 1) 心臓移植 99例（平成29年10例）
- 2) TAVI 566例（平成29年143例）
- 3) 補助人工心臓装着例 431例（平成29年41例）
- 4) 筋芽細胞シート移植 59例（平成29年10例）

(2) 臨床研究など

- 1) iPS細胞を用いた心筋再生治療創薬
- 2) 血管新生薬剤による虚血性心筋症の克服
- 3) 心臓移植レシピエント心臓弁を用いた脱細胞化ヒト心臓弁の移植に関する安全性および有効性の研究 など

(3) 学会の施設認定

- ・日本内科学会教育病院
- ・日本外科学会認定施設
- ・日本循環器学会研修施設
- ・日本胸部外科学会認定施設
- ・日本心臓血管外科学会認定施設
- ・脳死心及び心肺移植認定施設
- ・植込型補助人工心臓実施施設
- ・超音波専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション学会研修施設
- ・TAVI 認定施設
- ・ステントグラフト実施施設
- ・ICD/CRT 植込施設
- ・デバイスリード抜去施設

(4) 学会指導医・専門医数

- ・日本内科学会 認定医 78名、専門医 20名、指導医 19名
- ・日本外科学会 専門医 46名、指導医 4名、認定医 9名
- ・日本循環器学会 専門医 39名
- ・日本不整脈学会 専門医 3名
- ・心臓血管外科学会 専門医 16名、修練指導医 6名
- ・日本超音波学会 指導医 3名
- ・日本インターベンション学会 認定医 15名、指導医 1名
- ・ステントグラフト実施機構 指導医 6名、実施医 11名
- ・植込型補助人工心臓 実施医 5名
- ・日本移植学会 認定医 6名
- ・再生医療学会 認定医 7名